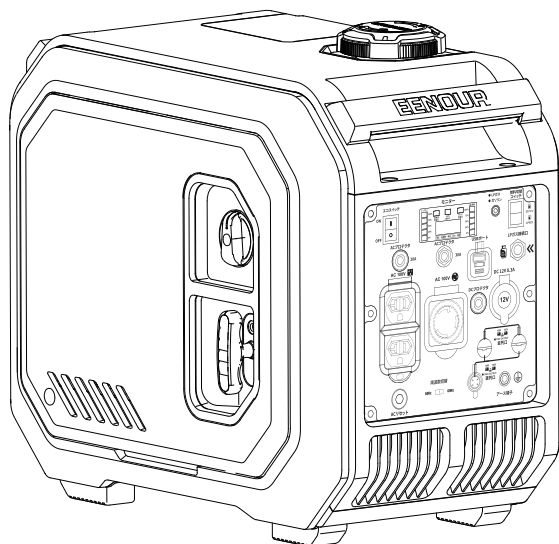


EENOUR (イーノウ)



インバーター発電機 H3000iSDF 取扱説明書

はじめに

このたびは「EENOURインバーター発電機H3000iSDF」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくために	01～02
各部の名称と取り扱い	03～09
・各部の名称	03
・コントロールパネル部	04
・各部の取り扱い	05～09
運転前の点検	10～11
・エンジンオイルの給油	10
・エンジンオイルの量の確認	10～11
・エンジンの始動前の確認事項	11
発電機のかけ方(ガソリンの場合)	12～13
・燃料の給油	12
・エンジンの起動	13
発電機のかけ方(LPガスの場合)	14～17
・ガス供給ボックスとの接続	14
・LPガス容器との接続	15～16
・エンジンの起動	16
・エンジンの停止	17
電気の取り出し方	18～22
・AC電源 100V	18
・DC電源 12V	18
・USBポート	19
・並列運転	20
・直列運転	21～22
点検・整備の仕方	23～27
・定期点検表	23
・エンジンオイルの交換	24
・点火プラグの点検と清掃	25
・燃料タンクストレーナーの清掃	26
・エアクリーナエレメントの清掃	26～27
運搬する場合には	28
一時保管・長期保管	29
不具合時の対応	30
仕様諸元	31
配線図	32
保証期間およびお問い合わせ	33
保証書	34
保証の適用例外	35

安全にお使いいただくために

運転、保守および点検を行う前に、本取扱説明書および製品本体に貼付されているすべてのラベルを必ずお読みください。製品の使用方法や安全上の注意事項を十分に理解したうえで、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報として注意事項を習熟してからご使用ください。

⚠ 危険

❶ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気に近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

❷ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

❸ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

❹ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

❺ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で固い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップやキャブレターから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

❻ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

❼ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因となります。

❽ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続された電気機器を使用したり、濡れた手で操作したりすると、感電するおそれがあり危険です。

安全にお使いいただくために

⚠ 危険

❗ 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている内容以外の分解、修理、改造は絶対に行わないでください。けがや異常動作、本機および接続された電気機器の故障の原因となります。

❗ エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身事故や機械の損傷を防止するため、エンジン始動前には必ず運転前点検を行ってください。点検を怠ると、手や足を挟まれるなど思わぬ事故の原因となります。

❗ 長期保管前には燃料タンクやキャブレター内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は適切に保管または処分してください。取り扱いを誤ると、火災や爆発の原因となるおそれがあります。

❗ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、点火プラグキャップを取り外す

エンジン停止直後は、エンジン本体や排気部が高温になっています。やけどを防ぐため、各部が十分に冷えてから点検や清掃を行ってください。

⚠ 警告

❗ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

❗ 本体は直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所で使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。

❗ エンジン部や排気口が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

❗ 使用中に音、振動などに異常を感じたら直ちにエンジンを停止する

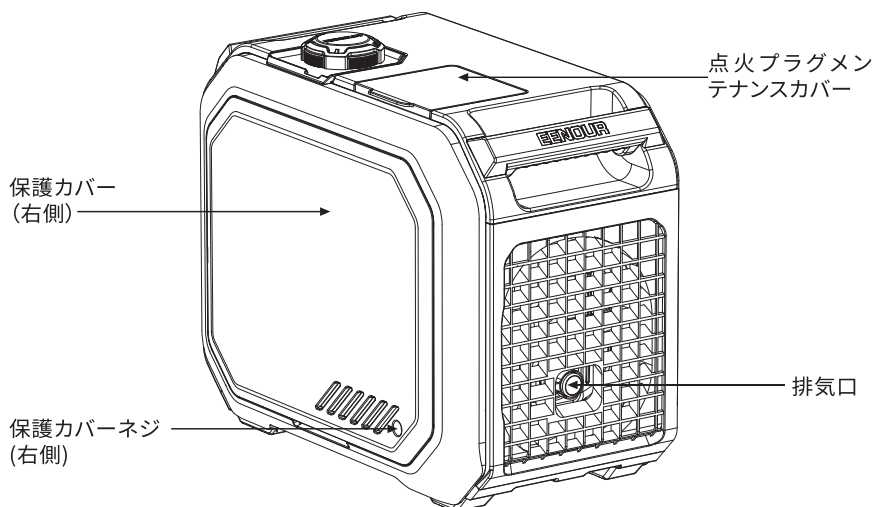
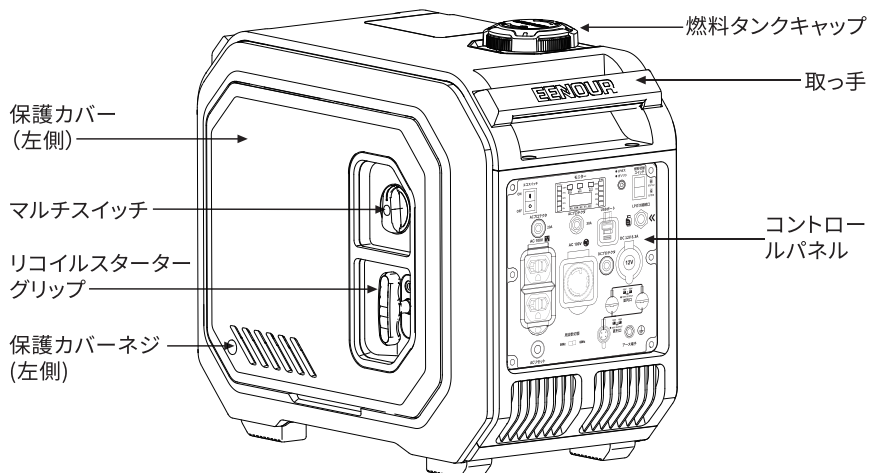
お買い上げ販売店またはサービス店にお問い合わせください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類を取り替えてください。燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

❗ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

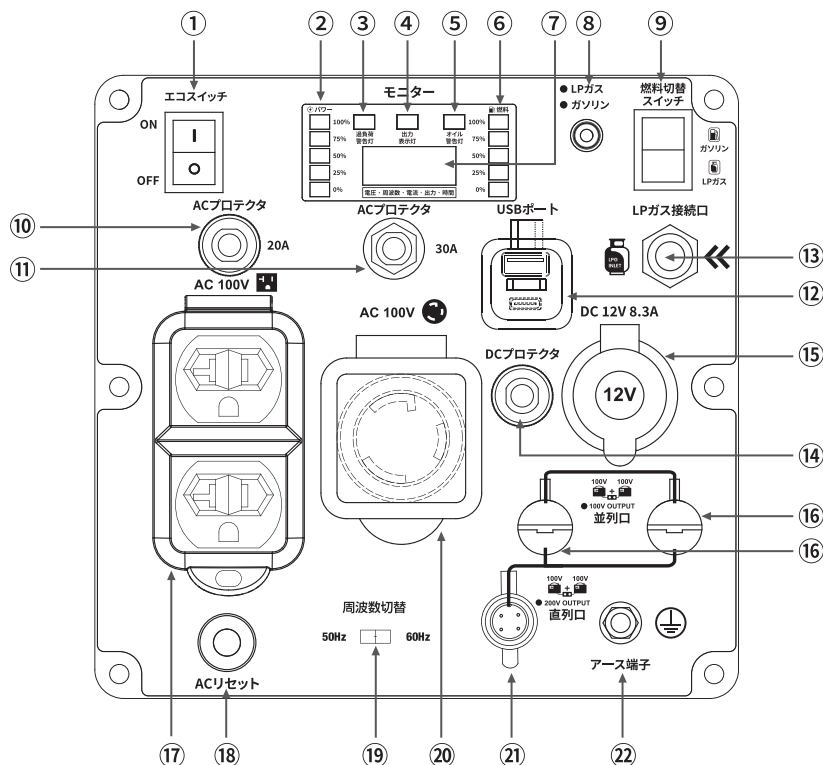
各部の名称と取り扱い

各部の名称



各部の名称と取り扱い

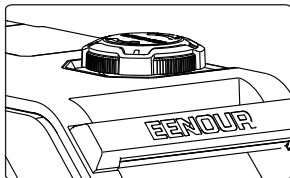
コントロールパネル部



① エコスイッチ	⑨ 燃料切替スイッチ	⑯ 並列口
② パワーインジケータ	⑩ ACプロテクタ (20A)	⑰ AC出力コンセント 20A
③ 過負荷警告灯	⑪ ACプロテクタ (30A)	⑱ ACリセット
④ 出力表示灯	⑫ USBポート	⑲ 周波数切替スイッチ
⑤ オイル警告灯	⑬ LPガス接続口	⑳ AC出力コンセント 30A
⑥ 燃料インジケータ	⑭ DCプロテクタ	㉑ 直列口
⑦ LCDモニター	⑮ DCシガーソケット	㉒ アース端子
⑧ 燃料表示灯(緑/青)		

各部の名称と取り扱い

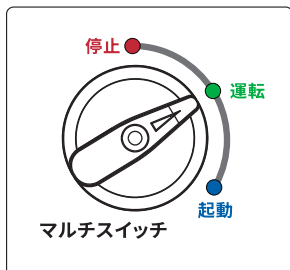
各部の取り扱い



1. 燃料タンクキャップ

燃料タンク内と外気を連通する通気口の開閉装置です。
本機の運転時および停止時に操作します。

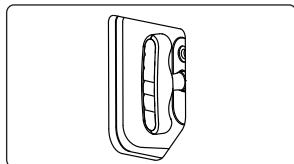
- ON (開) : 発電機始動、運転時。
- OFF (閉) : 発電機停止、運搬、保管時。



2. マルチスイッチ

燃料コックとチョークを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

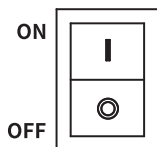
- 起動: エンジンが冷えている状態からエンジンをかけるときの位置です。リコイルスターターグリップを引き、エンジンがかかりしばらくしたら、「運転」の位置にしてください。
- 運転: エンジンが温まっている状態 (再始動、夏季など) からエンジンをかけるときの位置です。
- 停止: 初期状態です。停止及び保管、半運転時の位置です。



3. リコイルスターターグリップ

エンジンを始動させるときに使用します。

エコスイッチ



4. エコスイッチ

- ON (作動) : エコモードに切り替えます。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。
- OFF (解除) : エコモードを解除します。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

⚠注意: 冷蔵庫、コンプレッサ、溶接機や水中ポンプなど、起動時に大きな起動電力を必要とする機器を使用する場合はエコスイッチをオフにしてください。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い



5. パワーインジケータ

電力使用目安を示すものです。電気使用量が増加するにつれて0%→100%の順に点灯します。



6. 燃料インジケータ

燃料の残量を示すものです。ガソリンが減るにつれて100%→0%の順に消灯します。



電圧・周波数・電流・出力・時間

7. LCDモニター

発電機の出力電圧、周波数、出力電流、出力電力および累積使用時間を順番に表示します。



過負荷警告灯



出力表示灯



オイル警告灯

8. 過負荷警告灯・出力表示灯・オイル警告灯

・過負荷警告灯(赤): 発電中に接続機器の異常や過負荷が発生した場合に点灯します。点灯時は出力表示灯が消灯し、電力を供給できなくなります。

・出力表示灯(緑): 発電が始まると点灯します。インバーターが使用可能であることを示します。

・オイル警告灯(赤): 本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し、焼付きが起こる前に、この機構が働き、エンジンを停止させ、オイル警告灯が点灯します。

△注意: 機器によって起動時に起動電力が消費電力の1.1倍～5.0倍位掛かることもありますので、使用したい電気機器の起動電力の合計は、ガソリンの場合が3000W以下で、LPガスの場合が2800W以下であることを確認してください。

- LPガス
- ガソリン



9. 燃料表示灯(緑/青)

発電が始まると点灯します。

LPガスが使用されている時には緑色に点灯します。

ガソリンが使用されている時には青色に点灯します。

各部の名称と取り扱い

各部の取り扱い

燃料切替
スイッチ



10.燃料切替スイッチ

ガソリンとLPGの切替を行うスイッチです。エンジンを始動する前に、使用する燃料によって切り替えてください。エンジン運転中に切り替えることができません。

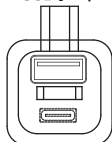
LPガス接続口



11.LPガス接続口

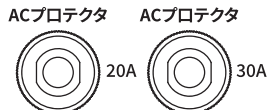
LPガスを使用する場合は、圧力調整器付ガスホースをこの接続口に取り付けます。

USBポート



12.USBポート

USBポートはType-A口とType-C口(25W)を備えています。スマートフォン、タブレットなどに使えます。

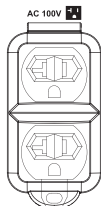


13.ACプロテクタ(20A/30A)

AC出力コンセントの負荷が設定の規定値を超えた場合、ACプロテクタ(過熱保護装置)が作動し、電力の供給を停止します。配線や接続機器に異常がないこと、および過負荷状態でないことを確認したうえで“断”になり、電気が取らせなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからACプロテクタを“入”にした後、再度起動してください。

各部の名称と取り扱い

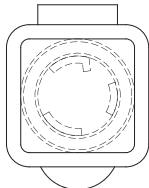
各部の取り扱い



14.AC出力コンセント20A

AC出力コンセント20Aは一般的な電気機器への給電に使用できます。電気機器の消費電力の合計が2000Wを超えないようにしてください。

AC 100V



15.AC出力コンセント30A

消費電力が2000W～3000Wの電気機器に給電する場合、このコンセントを使ってください。また、NEMA規格 L6-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用してください。

参考プラグ:

- ・アメリカン電機(株) 製 3322N-L6/3322R-L6
- ・(株) 明工社製 MH7173W/MH7173B

DCプロテクタ



：“断”
回路が切れる



：“入”
回路が接続する

16.DCプロテクタ

シガーソケットの温度が直流プロテクタ(過熱保護装置)の設定温度を超えると直流プロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してから直流プロテクタを“入”にします。

DC 12V 8.3A

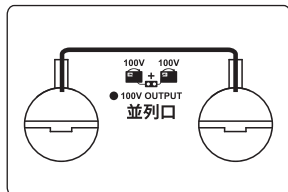


17.シガーソケット

シガーソケットは12V対応の車載冷蔵庫、車載炊飯器、冷温庫などに使用できます。

各部の名称と取り扱い

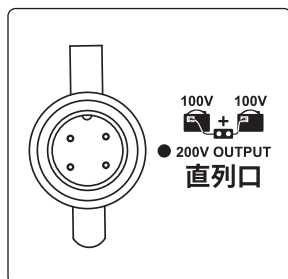
各部の取り扱い



18. 並列運転端子

並列運転をする時に直列・並列運転コンセントボックスの並列運転コード(赤黒)を差し込む端子です。接続コードは直列・並列運転コンセントボックス(別売部品)を必ず使用してください。直列・並列運転コンセントボックスはお買い上げ販売店にご注文ください。

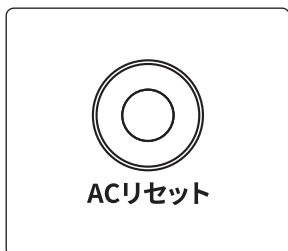
「品名:EENOUR 直列・並列運転コンセントボックス、型番:DK50A」



19. 直列運転端子

直列運転をする時に直列・並列運転コンセントボックスの直列運転コード(銀色)を差し込む端子です。(直列運転の際に、赤黒、銀色の端子を全部接続する必要があります。)接続コードは直列・並列運転コンセントボックス(別売部品)を必ず使用してください。直列・並列運転コンセントボックスはお買い上げ販売店にご注文ください。

「品名:EENOUR 直列・並列運転コンセントボックス、
型番:DK50A」



20.ACリセットスイッチ

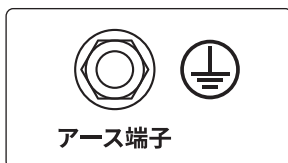
過負荷警告灯が点灯および出力表示灯が消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力表示灯が点灯し電気の供給が再開されます。このボタンを押す前に下記を確認してください。

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気を取り出しすぎて過負荷状態になっていないか。使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。



21.周波数切替スイッチ

周波数の切り替え(50Hz⇄60Hz)を行うスイッチです。エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



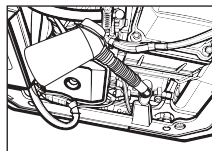
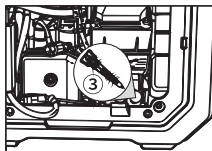
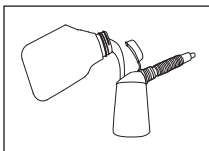
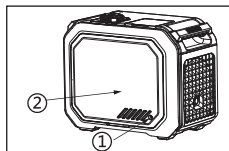
22.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。

運転前の点検

エンジンオイルの給油

1. 右側の保護カバーのネジ①を外し、保護カバー(右側)②を手前に引いて取り外します。
2. 付属のオイルジョッキのフタを開け、エンジンオイルを注ぎます。
△注意: 本機のエンジンオイル規定量が450mlで、付属のオイルジョッキの容量が220mlなので、200ml・200ml・50mlとの3回に分けて注いでご使用ください。
3. オイルゲージを注入口にねじ込まずに差し込み、そのまま引き抜いてオイル量を確認します。
4. 給油したらオイルゲージを取り付け、確実に締め付けます。保護カバーを取付、ネジを確実に締め付けます。



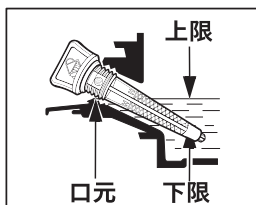
推奨オイル: 4サイクル用エンジンオイル

API分類: SE級以上、SAE粘度分類: 10W-30もしくは10W-40

エンジンオイル規定量: 0.45L

エンジンオイルの量の確認

1. 平坦な場所に発電機を置き、右側の保護カバーを外します。
2. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
3. オイルゲージを差し込んで(注入口からオイルゲージをねじ込まないで)から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。
4. オイルゲージにはレベル線がついており、エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。



運転前の点検

⚠ 注意



禁止

・エンジンオイルを給油せずに始動しないでください。始動しないでください。オイルを入れ過ぎると白煙が発生し、アイドリングが不安定になることがあります。オイルが足りない場合は始動した後にオイル警告灯が点灯し、すぐに止まることがあります。



指示

・オイルゲージは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。
2回目以降は100時間運転後、または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

エンジンの始動前の確認事項

- ・エンジンオイルは適量充填されていますか。
- ・燃料は購入1か月以内の新鮮なものが適量充填されていますか。
- ・周囲に燃えやすい物(特にガソリンやエンジンオイルなど)や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

⚠ 警告



禁止

・車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

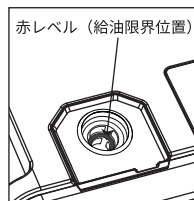
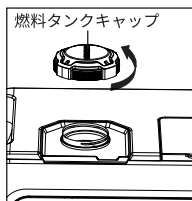
発電機のかけ方(ガソリンの場合)

燃料の給油

燃料タンクキャップを反時計回りに回して外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時:中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、ガソリンに交換してください

使用燃料:
無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

燃料タンク容量:
3.8L(赤レベルまで)



警告



禁止

- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
- ・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。



指示

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入った場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

注意



禁止

- ・燃料は規定量以上(ストレナーの赤レベル以上)、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。
- ・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。



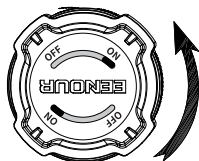
指示

- ・燃料を給油した後は燃料タンクキャップを確実に締付けてください。
- ・燃料を入れすぎて溢れたり、こぼれた場合はこぼれた燃料を拭き取ってください。
- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- ・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルで保管すると、容器の成分がガソリンに溶け出したり、容器が劣化したりするおそれがあり、エンジン故障の原因となります。

発電機のかけ方(ガソリンの場合)

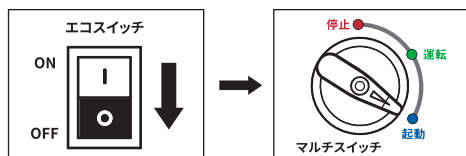
エンジンの起動

1.燃料タンクキャップを反時計回りにカコッと音がするまで回してON(開)にします。



2.エコスイッチをOFFにします。

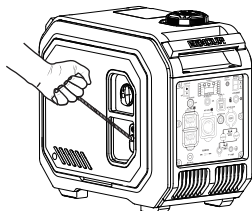
3.マルチスイッチを「起動」の位置にします。ただしエンジンが温まった後の再始動時や環境温度が高いときは「起動」の位置を使用せず、直接「運転」の位置にしてください。



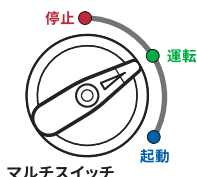
4.エンジンを始動します。

リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。

⚠注意: 始動装置または本体カバーの損傷を防ぐために、グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。



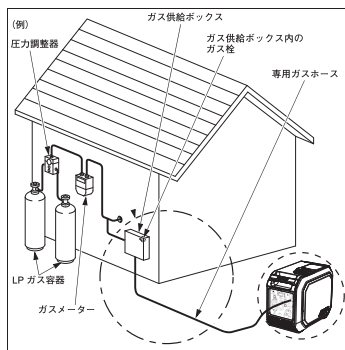
5.起動後エンジンの回転が安定したら、マルチスイッチを「運転」の位置にします。約3～5分間、無負荷で暖機運転を行ってください。



発電機のかけ方(LPガスの場合)

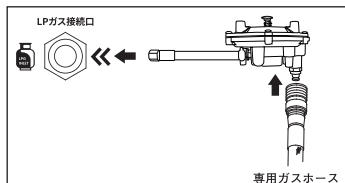
ガス供給ボックスとの接続

軒先にある低圧 LP ガス (圧力約 2.8kPa) から発電機に供給する場合は、LP ガス業者に依頼し、屋外に「YAZAKI 社製専用 LP ガス供給ボックスおよびガス供給設備を設置する必要があります。」「専用ガス供給ボックス」がない場合は専用ガス供給ボックスの仕様のよう、検査孔付可とう管ボールガス栓を設置する必要があります。詳細については LP ガス事業者へお問い合わせください。



接続手順

1. 付属の圧力調整器付ガスホースを発電機のLPガスホース接続口に取り付けます。
2. ガス供給ボックスから専用ガスコードを取り出します。
3. 専用ガスコードを付属の圧力調整器付ガスホースのガス栓に差し込みます。



⚠ 注意



禁止

- ・専用供給ボックスの設置は、LP ガス事業者 (有資格者) が行います。お客様自身で行わないでください。
- ・熱部に専用ガスホースを近づけないでください。専用ガスホースの劣化が進み、亀裂などが発生して重大な事故につながるおそれがあります。



指示

- ・専用ガスホースは、正しく取り扱ってください。正しく取り扱わないと、ガス漏れのおそれがあり、ガス漏れ事故の原因になります。
- ・専用供給ボックスは、LP ガス事業者の設置部品です。「ガス供給ボックス」の取扱説明書に従ってください。

⚠ 警告



禁止

- ・LP ガスおよび LP ガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高压ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律 (液石法)」、「消防法」等を遵守してください。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。
- ・LP ガスが漏れているとき (ガス臭いなどガス漏れを感じたとき) は、直ちにエンジンを停止し、次の処置を行ってください。
 - ① 専用供給ボックス内のガス栓を閉 (OFF) にする。
 - ② 専用ガスホースを本機から取外す。
 - ③ LP ガス事業者に連絡する。

発電機のかけ方(LPガスの場合)

LPガス容器との接続

専用供給ボックスを使用しない場合、検圧プラグ付きの単段式調整器を介してLPガス容器に接続することもできます。

LPガス容器との接続は下記の2つのパーツ(別売り)が必要です。

①LPガス用単段式調整器検圧プラグ付。参考製品：桂精機製作所 単段式調整器SKL-5BH、検圧プラグKKP-R1/2

②専用ガスコード(長さ5m以下で、推奨長さ:2m)。参考製品：リンナイ(Rinnai)社製RGH-20K
LPガス容器の接続は、有資格者が行う必要がある場合があります。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。

△注意：ヒューズガスメーターは、LPガス消費量15kg(0.56kg/h)以下の機器にのみ使用できるため、本製品には使用できません。



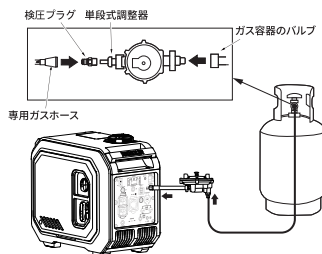
ヒューズガス栓ガスの最大流量が少ないため使えません。



検圧プラグガスの流量制限がないので使えます。

接続手順

- 1.検圧プラグを単段式調整器に取り付けます。
- 2.単段式調整器をLPガス容器のバルブに取り付けます。
- 3.付属の圧力調整器付ガスホースを発電機のLPガスホース接続口に取り付けます。
- 4.専用ガスホースのガス栓側ソケットを単段式調整器に接続します。
- 5.専用ガスホースの機器側ソケットを付属の圧力調整器付ガスホースのガス栓に差し込みます。



⚠ 注意



禁止

- ・接続パーツは、分解・改造等をしないでください。正しく取扱わないと、ガス漏れの可能性があります。
- ・専用ガスホース以外のホースを使用しないでください。



指示

- ・LPガスは爆発性がありますので、取扱いには十分注意してください。
- ・専用ガスコードの取付け、取外しはエンジンを停止した状態で、換気の良い場所で行ってください。

発電機のかけ方(LPガスの場合)

警告



禁止

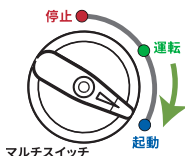
- ・LP ガスおよび LP ガス容器の取扱いに関しては、各種法律や規制があります。「高圧ガス保安法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律(液石法)」、「消防法」等を遵守してください。詳しくは最寄りのガス販売店にご相談ください。
- ・使用中は本機をLP ガス容器から遠く離してください。また、熱い状態の本機を、LP ガス容器に近づけないでください。LPガス容器の爆発など死傷事故を引き起こすおそれがあります。

エンジンの起動

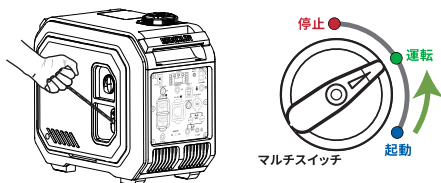
1.専用供給ボックス内のガス栓またはLPガス容器のバルブを開け、ガス漏れがないか確認します。燃料切替スイッチをLPガスの位置にします。



2.マルチスイッチを[起動]の位置にします。ただしエンジンが暖まった後の再始動時や環境温度が高い時は直接[運転]の位置にします。



3.リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から1回~2回よく引き、LPガスがツリンダーヘッドに入ります。リコイルスターターは手を添えてゆっくりと元に戻してください。マルチスイッチを「運転」の位置にします。リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態からよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターは手を添えてゆっくりと元に戻してください。



4.起動後エンジンの回転が安定したら、約3~5分間、無負荷で暖機運転を行なってください。

発電機のかけ方(LPガスの場合)

エンジンの停止

- 1.電気器具のスイッチをOFFにします。電気器具のプラグをコンセントから抜きます。
- 2.マルチスイッチを[停止]の位置にしてエンジンを停止します。
- 3.専用供給ボックス内のガス栓またはLPガス容器のバルブを閉めてください。
- 4.ガスホース接続口から専用ガスホースを取り外します。

警告



禁止

- 換気や風通しが不十分で排気ガスがこもる場所ではエンジンを始動しないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒を引き起こす原因となります。
- エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。
- LPガスが漏れたままエンジンをかけないでください。

警告



指示

- リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、マルチスイッチを[運転]の位置にし、再度起動を試みてください。

電気の取り出し方

AC電源 100V

- 1.周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
- 2.発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
- 3.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示灯（緑）が点灯していることを確認します。
- 4.接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、ACコンセントへ電気機器のプラグを確実に差し込みます。
- 5.電気機器のスイッチを入れます。正常運転（定格負荷）でご使用の場合は、出力表示灯（緑）が点灯し続けます。
- 6.過負荷状態になった場合や、接続した電気機器に異常が発生した場合は、出力表示灯（緑）が消え、過負荷警告灯（赤）が点灯し続け、電気が取出せなくなります。
この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットボタンを押してリセットすることで、出力表示灯（緑）が点灯し電気の供給が再開されます。

DC電源 12V

- 1.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する12V車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差し込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転（定格負荷以内）でご使用の場合は、出力表示灯（緑）が点灯し続けます。

電気の取り出し方

USBポート

- 1.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.出力表示灯(緑)が点灯したら、USBケーブルをUSBポートに挿し込みます。

警告



禁止

・電力会社からの電気配線には絶対に接続しないでください。火災や人身事故、本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

注意



禁止

・電気機器の合計負荷(交流・直流の合計)が、本機の定格出力を超えた範囲で使用しないでください。



指示

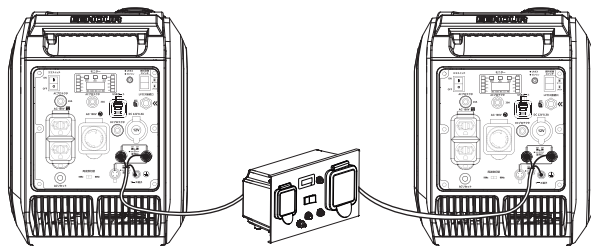
・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保してください。
・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
・電動工具や汎用モーターの一部は、定格出力内であっても起動電流が大きいいため使用できない場合があります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。
・コンプレッサや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告灯が数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

電気の取り出し方

並列運転

本機は同機種種のH3000iSDFまたはHシリーズのH2500iS/H3000iSとDKシリーズのDK2500iS/DK3000iS/DK1800iSDF/DK3000iSDFの発電機と組み合わせて並列運転することができます。

1. 直列・並列運転コンセントボックス（別売部品）の電圧切替スイッチを左側「100V並列」の位置にします。
2. 直列・並列運転コンセントボックスの並列運転コード（赤黒）をそれぞれの発電機の並列運転端子とアース端子に接続します。
3. 二つの発電機の周波数切換えスイッチを接続する電気機器の周波数にあわせます。
4. 直列・並列運転コンセントボックスに接続する電気機器を大地にアースした場合は、並列運転コンセントボックスの本体も必ずアースしてください。
5. 「発電機のかけ方」に従ってそれぞれの発電機を始動します。
6. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、直列・並列運転コンセントボックスのコンセントへ電気機器のプラグを差し込みます。
7. 電気機器のスイッチを入れます。正常に運転している場合は、両方の発電機の出力表示灯（緑）が常時点灯します。



警告



禁止

- ・指定する発電機以外には絶対に並列に接続しないでください。
- ・並列運転を行っているとき、直列・並列運転コンセントボックスのコードを外さないでください。



指示

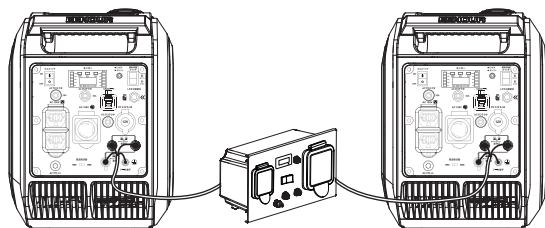
- ・直列・並列運転コンセントボックスはお買い上げ販売店にご注文ください。「品名：EENOUR 直列・並列運転コンセントボックス、型番：DK50A」
- ・並列運転時出力＝1台あたり定格出力×台数×0.95
- ・「直列・並列運転コンセントボックス DK50A」の30Aコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ（別売部品）を使用してください。
参考プラグ：アメリカン電機（株）製 4312N-L14
- ・「直列・並列運転コンセントボックス DK50A」の50Aコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格14-50Pに準拠したプラグ（別売部品）を使用してください。
参考プラグ：ハッセル（Hubbell）社製HBL9451C/HBL9452C
- ・単独運転をする時は並列運転コンセントボックスコードを必ず外してください。並列運転コンセントボックスコードを接続したまま、一方の発電機のエンジンを止めて、電気を取り出さないでください。

電気の取り出し方

直列運転

本機は同機種のH3000iSDF、またはHシリーズのH2500iS/H3000iS発電機と組み合わせて直列運転することができます。直列に接続すると直列・並列運転コンセントボックスからの電圧が単相200Vになり、エアコン、IH調理器具、衣類乾燥機など単相200V入力の高パワー家電を使うことができます。

1. 直列・並列運転コンセントボックス (別売部品) の電圧切替スイッチを右側「200V 直列」の位置にします。
2. 直列・並列運転コンセントボックスの並列運転コード(赤黒)をそれぞれの発電機の並列運転端子(並列口)とアース端子に接続します。
3. 直列・並列運転コンセントボックスの直列運転コード(銀色)をそれぞれの発電機の直列運転端子(直列口)に接続します。
4. 二つの発電機の周波数切替スイッチを接続する電気機器の周波数にあわせます。
5. 直列・並列運転コンセントボックスに接続する電気機器を大地にアースした場合は、並列運転コンセントボックスの本体も必ずアースしてください。
6. 「発電機のかけ方」に従ってそれぞれの発電機を始動します。
7. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、直列・並列運転コンセントボックスのコンセントへ電気機器のプラグを差し込みます。
8. 電気機器のスイッチを入れます。正常に運転している場合は、両方の発電機の出力表示灯(緑)が常時点灯します。



ご注意:

対応機種の組み合わせ

HシリーズのH2500iS/H3000iS/H3000iSDFとDKシリーズのDK2500iS/DK3000iS/DK1800iSDF/DK3000iSDF ⇒ 並列接続のみ

HシリーズのH2500iS/H3000iS/H3000iSDFとHシリーズのH2500iS/H3000iS/H3000iSDF ⇒ 直列・並列接続ともに可能

電気の取り出し方

警告



禁止

- ・直列運転時の出力は単相200Vなので、三相200V入力の業務用電気機器は使用しないでください。動作不良や故障の原因となります。
- ・指定する発電機以外には絶対に直列に接続しないでください。



指示

- ・直列・並列運転コンセントボックスはお買い上げ販売店にご注文ください。
「品名：EENOUR 直列・並列運転コンセントボックス、型番：「DK50A」
- ・直列運転時出力＝1台あたり定格出力×台数×0.9
- ・直列運転時は発電機の直列運転端子（直列口）だけでなく、並列運転端子（並列口）も接続する必要があります。
- ・「直列・並列運転コンセントボックス DK50A」の30Aコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ（別売部品）を使用してください。
参考プラグ：アメリカン電機（株）製 4312N-L14
- ・「直列・並列運転コンセントボックス DK50A」の50Aコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格14-50Pに準拠したプラグ（別売部品）を使用してください。
参考プラグ：ハッセル（Hubbell）社製HBL9451C/HBL9452C
- ・単独運転をする時は並列運転コンセントボックスコードを必ず外してください。接続コードを接続したまま片方の発電機を停止し、もう一方の発電機のみで使用しないでください。

点検・整備の仕方

警告



- ・交換する部品は当社の指定する部品以外は使用しないでください。
- ・取扱説明書に記載されている以外の分解や改造は行わないでください。

注意



- ・メンテナンスを行う前に、本書をよく読み、必要な工具や知識・技術を備えていることを確認してください。
- ・火災や爆発の危険を回避するため、メンテナンスを行う前に、本書をよく読み、必要な工具や知識・技術を備えていることを確認してください。部品の洗浄にはガソリンではなく、不燃性の溶剤のみを使用してください。
- ・業務用途で使用する場合は、通常より短い間隔でメンテナンスを実施してください。適切なメンテナンスを行わない場合、保証対象外となる故障が発生するおそれがあります。

定期点検表

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

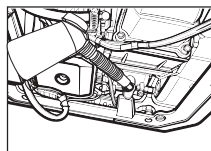
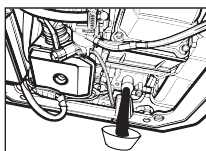
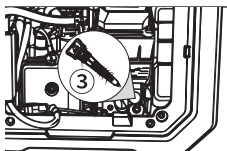
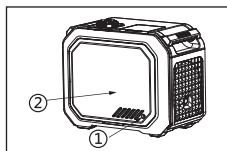
※2ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※1		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と 指触による点検	●				
	・清掃			●※2		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目 視点検および清掃				●	
マフラーワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトの ゆるみ確認			●		

点検・整備の仕方

エンジンオイルの交換

1. エンジンを開始し、2～3分間暖機運転を行った後、停止してください。エンジンオイルが排出しやすくなります。
2. 排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
3. 右側の保護カバーのネジ①を外し、保護カバー②を手前に引いて、取り外します。
4. オイルゲージ③を外し、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
5. 発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
6. 付属のエンジンオイル排出用ホースを外します。
7. オイルジョッキをオイル給油口に差し込み、エンジンオイルを規定量給油します。
8. 給油したらオイルゲージを取り付け、確実に締め付けます。保護カバーを取付、ネジを確実に締め付けます。



推奨オイル: 4サイクル用エンジンオイル、API 分類: SE 級以上、
SAE 粘度分類: 10W-30 もしくは 10W-40、エンジンオイル規定量: 0.45L

※1 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。2回目以降は100時間運転後または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

※2 ほかの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

点検・整備の仕方

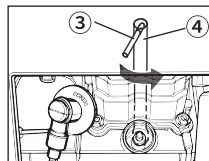
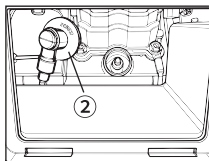
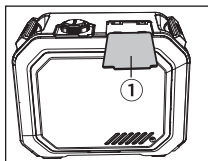
点火プラグの点検と清掃



指示

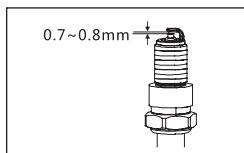
・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

1. 点火プラグメンテナンスカバー①を取外します。
2. 点火プラグキャップ②を点火プラグより外します。
3. プラグレンチハンドル③、プラグレンチ④で点火プラグを取外します。



4. スパークプラグの焼け具合を点検します。通常、電極付近はクツネ色に焼けていますが、黒くくすぶっていたり、白く焼けていた時は、パーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ（カーボン）を落とします。

5. 電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。
指定点火プラグ: A5RTC (TORCH) 適合互換プラグ: CR6HSA (NGK)
電極のすき間: 0.7~0.8mm



スパークプラグトルク : 12.5 N.m

6. 点火プラグを取り付け、手で回らなくなるまでねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
7. 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
8. 点火プラグメンテナンスカバーを取付けます。

⚠ 注意



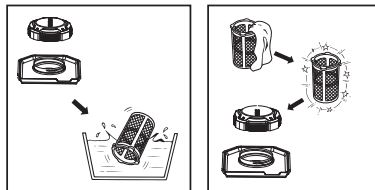
指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

点検・整備の仕方

燃料タンクストレーナーの清掃

1. マルチスイッチを「停止」の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナを洗浄します。
4. ストレーナをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。



警告



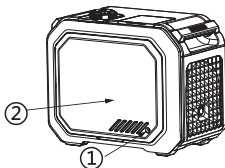
禁止

・作業中は喫煙したり、火気を近づけたりしないでください。

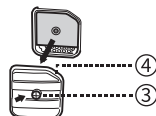
エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナーが汚れて詰まるとエンジンに燃焼用の空気を送れず、点火しづらかったり、エンジン回転数が安定しないなど、エンジン不具合の原因となります。定期的にエアクリーナーを清掃してください。土埃や埃などが多い環境で使用される場合は頻繁に点検清掃を行ってください。

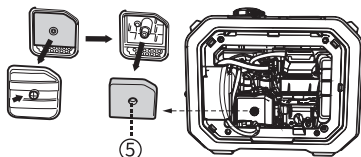
1. 右側の保護カバーのネジ①を外し、保護カバー②を手前に引いて取り外します。



2. カバーネジ③を緩め、エアフィルターカバー④を取り外します。



3. エアフィルター⑤を取り外します。

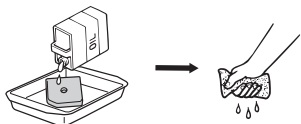


4. 「洗い油」または「水で薄めた中性洗剤」でエレメントを洗浄します。洗浄後、エレメントを破損させないように、布で包み押しつぶしながら、余分な液体を十分にに取り除いてください。ボロボロであったり、崩れたり、汚れがひどいときは新しいものに交換してください。

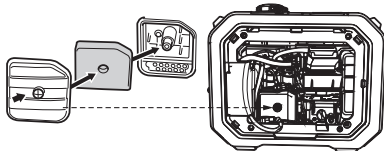


点検・整備の仕方

5. エLEMENTをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



6. エLEMENTをエアクリーナ本体にはめ込みます。保護カバーを元の位置に戻し、スクリューを締め付けます。



7. 保護カバーを確実に取付、ネジを締め付けます。

⚠ 警告



禁止

・ガソリンや可燃性溶剤を使用してエアフィルターを掃除すると火災や爆発を引き起こす可能性があります。石鹸水または不燃性溶剤のみを使用してください。

⚠ 注意



禁止

・ELEMENTは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。
・ELEMENTを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

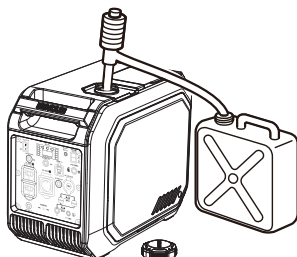
・エアクリーナーが目詰まりすると、出力低下・燃料消費が増えるため、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

運搬する場合には

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、以下を必ず守ってください。

運搬の場合

1. エンジンを停止し、マルチスイッチを「停止」の位置にします。
2. エンジンが十分に冷えてから、燃料タンクキャップを「OFF」の位置にします。
3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



4. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
5. 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定します。

警告



禁止

- 振動、衝撃などで燃料タンクの燃料がこぼれるおそれがありますので、燃料タンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。
- 燃料が気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。
- 火災のおそれがありますので、車両に積載したまま使用しないでください。
- 発電機の上に重い物を置かないでください。



指示

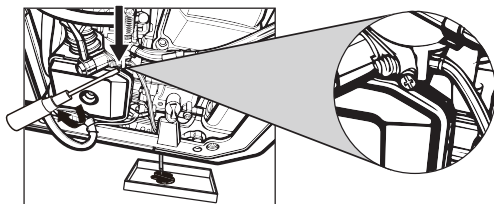
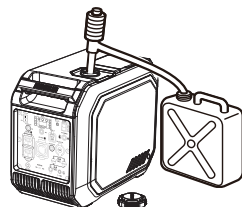
- 火災のおそれがありますので、予備の燃料は消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。
- 本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。
- 特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。

一時保管・長期保管

使用後または定期運転後、次回の使用まで3か月以上空く場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これを行わないと、故障の原因となります。

一時保管の場合

1. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
3. 燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。(13~14ページ)
4. 無負荷運転(電気機器は接続しない)を行います。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
5. エンジンが停止しましたら、右側の保護カバーのネジを外し、保護カバーを取り外します。
6. 排出するガソリンを受ける容器を用意します。
7. キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かず長期放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。



8. ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。
9. 保護カバーを取り付けて、ネジを確実に締め付けます。
10. マルチスイッチを「停止」の位置にし、燃料タンクキャップを「OFF」の位置にします。
11. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

長期保管の場合

1. “一時保管”の1~11の作業を行います。
2. 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3~5mL給油します。
3. リコイルスターターグリップを2~3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
4. リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態(圧縮状態)にします。
5. 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

不具合時の対応

故障は、適切な点検・整備を行うことで未然に防ぐことができます。故障の多くは、取り扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解せずお買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが 始動しない	ガソリンが入っていない	ガソリンを給油する	9ページ
	LPガスの容量が足りない	LPガスの残量を確認して LPガス容器を交換する	12ページ
	オイル警告灯(赤)が点灯している→ エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	8ページ
	エンジンの始動手順に誤りがある	正しいかけ方を再確認する	10ページ 13ページ
	マルチススイッチの位置調整	エンジンが温まっている場合や 夏期は「運転」	10ページ
		エンジンが冷えている場合や 冬期は「起動」	10ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	18ページ
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	17ページ
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	水平にする	5ページ
エンジンが 数分動いた 後止まる	問題のある燃料、エンジンオイルによる エンジン不調	正しい燃料・エンジンオイル に入れ替え	9ページ 17ページ
	マルチススイッチの位置が適切でない	起動後、マルチススイッチを「運転」 の位置に戻す	10ページ 13ページ
	暖気運転が足りない	暖気運転を行う	10ページ
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな 電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	/
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	17ページ
マフラーから 白煙が出る	キャブレターが詰まっている	キャブレターの清掃	/
	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定 量を注入する	17ページ
電気が「取り 出せない	SA級など、指定以外のエンジンオイル を使用している	指定のエンジンオイルを 使用する	8ページ
	過負荷警告灯(赤)が点灯・点滅、 出力表示灯が消灯する	過負荷の原因または使用器具 の異常を改善する	14ページ
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時 に大電流が流れる電気機器を使用	エコモードをOFFにする	6ページ
シートをかぶせている、または屋内で使用 するなどして本機の温度が高くなっている	シートをかぶせている、または屋内で使用 するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または 屋外で使用する	8ページ

仕様諸元

機種	H3000iSDF	発電部型式	多極界磁回転型
相数	単相	力率	1
交流(AC)	定格出力	3.0kVA(ガソリン) / 2.8kVA(LPガス)	
	最大出力	3.5kVA(ガソリン)/3.2kVA(LPガス)	
	定格電圧	100V	
	定格電流	30A(ガソリン) / 28A(LPガス)	
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz	
直流	定格電圧	12V	
	定格電流	8.3A	
USB	定格電圧	5V/3A 9V/2.5A 12V/2A	
	定格電流	3A/2.5A/2A	
装備	交流過電流保護装置	電子式	
	交流過熱保護装置	電子式	
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン	
	総排気量	145cc	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン/液化石油ガス	
	点火プラグ	A5RTC (TORCH) CR5HSB (NGK)	
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイルSAE10W-30もしくは10W-40API分類SE級以上	
	エンジンオイル規定量	0.45L	
燃料タンク容量		3.8L	
連続運転時間(ガソリン)		定格連続運転時:約2h 1/4 負荷連続運転時:約5.1h※1	
連続運転時間(LPガス)		定格連続運転時:1.3kg/h※2 1/4負荷連続運転時:0.45kg/h	
騒音レベル(7m)		58dB※3	
始動方式		リコイルスターター	
使用環境温度		-5℃～40℃(ガソリン)/-15℃～40℃(LPガス)	
寸法(全長X全幅X全高)		500*310*434mm	
乾燥重量		23.5kg	

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:エコモード ON 時

※2:「1.3kg/h」により、LPガス50kgで約38.5時間程度の運転が可能です(定格負荷)。LPガスを使用する場合は長時間の連続運転が可能ですが、エンジンの寿命を延ばすために、50時間程度の連続使用後、約1時間は発電機を休ませることをお勧めします。

※3:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモード ON(作動中)時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

配線図

保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は、使用部品の生産終了などにより、製造および販売を終了する場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ迅速かつ正確に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③本体の上部に貼られているバーコードラベルでの製造番号

④故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

保証書

品 名	EENOURインバーター発電機
品 番	H3000iSDF
購 入 日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お 客 様	ご住所 〒
	電 話 ()
	お名前 ----- 様

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限りします。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限りします。
3. 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。
 ＊本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。
 ＊使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。
 ＊お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。

保証の適用例外

- 1.注文番号や保証書が提示できない場合。
 - 2.保証書の字句を書き替えられた場合、改ざんされている場合、その他事実と異なる記載がされていた場合。
 - 3.ご使用上の誤り、または不当な修理や改造、誤接続、誤挿入や指定外の電源使用、他の接続している製品から受けた障害や、故障、損傷の場合。
 - 4.お買い上げ後の輸送や移動および落下、お客様にお引渡し後の不適当なお取り扱いにより生じた故障および損傷の場合。
 - 5.火災/地震/風水害/落雷その他の天変地変、テロ、暴動、公害、塩害、ガス害(硫化ガス等)異常な室温での使用、異常電圧などによる故障および損傷の場合。
 - 6.お客様のご使用環境や維持・管理方法に起因して生じた故障および損傷の場合(例:埃、錆び、カビ、虫、小動物の侵入および糞尿による故障等)。
 - 7.弊社に了承なく、製品本来の利用目的外で使用了ることによる故障および損傷の場合。
 - 8.再生品および中古販売で購入された場合。
- 以上各条に該当すると当社が判断した場合は保証期間内でも、保証対象外となり、修理も受け付けておりません。

